



東京ステーションホテル

“Living Heritage-使い続ける文化財” 保存・復原させた人々の想いを、次の100年へ 「赤レンガ駅舎工事関係者の想いをまとめた Web コンテンツ」

リニューアルオープン1周年の10月3日(木)9:00から、ホテルホームページで一般公開

東京駅丸の内駅舎内に位置する東京ステーションホテル(東京都千代田区丸の内1-9-1)は、東京駅丸の内駅舎の保存・復原事業の価値を広く伝えることを目的に、工事に挑んだ職人と工事関係者の方々のメッセージをまとめたWebコンテンツを、10月3日(木)9:00からホテルホームページで一般公開いたします。

東京駅丸の内駅舎は歴史的建築物であり、かつ、国の重要文化財でありながら現代の技術を駆使した施設として活用される、国内で希少な“使い続ける文化財”です。全国から集まった延べ78万人の職人と事業関係者の力によって、約5年の工期を経て2012年10月1日に創建当時の壮麗な姿に甦りました。東京ステーションホテルは本工事に伴い2006年3月31日に休館。全施設の内装を一新し、2012年10月3日に再び開業いたしました。

東京ステーションホテルは2012年の再開業にあたり、2011年7月の開業準備室発足直後に創り上げたMission Statement(ホテルの使命と行動指針)、“この先の100年も東京の中心で輝き続け、語り継がれるホテルであろう。先人達の積み重ねと、このヘリテージに感謝して”を指針に準備を進めました。2011年のホテル開業準備室時に、ホテルスタッフが雨や雪の日も怯まず職人の方々が駅舎を創っていく様子を目の前にし、「彼らは駅舎完成後ここにはいない。彼らの想いを集め広く伝えることが、完成後の駅舎を使い続けていくホテルの使命である」と決断。保存・復原工事に挑んだ職人と工事関係者の方々の想いを集約するプロジェクトを立ち上げ、ホテルリニューアルオープン1周年の10月3日(木)にWebコンテンツの一般公開に至りました。総支配人の藤崎齊は、「工事関係者の想いと保存・復原工事の意義を、多くの方々に知っていただきたい。」とコメントしております。

東京ステーションホテルは東京駅丸の内駅舎の中に位置するホテルとして、2014年の赤レンガ駅舎100周年、並びに、2015年の東京ステーションホテル開業100周年を見据え、“色褪せることのない記憶”というブランドコンセプトのもと、今後も同ホテルの歴史と生きた文化財である駅舎の価値を伝え続けます。同時に、昨年10月のホテル再開業後お客様との間に紡がれ始めている新たなストーリーも語り継いでいきます。

■制作活動

- ・2012年3月頃、当時の開業準備室スタッフ約30名で工事現場事務所の朝礼台に立ち、職人の方々にホテルのお客様へのメッセージ募集を呼びかけ、収集。
- ・銅板・煉瓦・目地・石工・左官・漆喰・仮受けの職人の方々の座談会を開催。忠実な復原のための作業、特に現代に伝承されていなかった伝統技法に挑んだ話しをヒアリング。
- ・2007年12月から5年以上副所長として現場を管理した鹿島建設の上浪鉄郎氏の取材。
- ・駅舎保存・復原の設計監理総括として活躍したジェイアール東日本建築設計事務所丸の内プロジェクト室室長の田原幸夫氏と、JR東日本の工事監理担当者との対談取材。



朝礼台から呼びかけた際の職人の方々

■Webコンテンツ概要

- ・30人の職人の方々のメッセージ(約60通から抜粋)
- ・職人の方々の工事風景写真(※鹿島建設様から借用)
- ・工事関係者の方々の想いやプロジェクトの意義、メッセージなど
- ・ホテルのメッセージ等

■WebコンテンツURL

<http://www.tokyostationhotel.jp/tokyostation/>



Webコンテンツイメージ

<一般のお客様のお問い合わせ先>

東京ステーションホテル Tel.03-5220-1111(代表)

<報道関係者様のお問い合わせ先>

東京ステーションホテル 広報担当 濱純子/山本芳裕
Tel.03-5220-1915/Fax.03-5220-0513